

平成30年度 日本大学スポーツ科学部個人研究費 研究実績報告書

所属: スポーツ科学部 競技スポーツ学科
 資格: 教授
 氏名: 青山 亜紀

研究課題	各種トレーニングピリオダイゼーション理論の主要概念のための基礎的研究	
報告の概要	研究目的及び研究概要	L.P.マツヴェイエフによって体系化されたトレーニングピリオダイゼーション理論は、「主要競技会における最高の競技力発揮」という競技スポーツにおける重要な問題に大きく関わるため、コーチング学領域において中心的な役割を担っている。高度に発展した現代の競技スポーツの現場では、各国の研究者による様々なトレーニングピリオダイゼーション理論が展開されている。しかしながら、最重要試合での最高の競技力発揮の確率は依然として低いままであり、実情に応じた理論を見出すに至っていない。このような状況にある背景には、各理論を特徴づける主要概念が統一されておらず、トレーニングピリオダイゼーションの本質が正確に理解されていない点に大きな要因があると考えられる。したがって本研究では、各理論を特徴づけている主要概念について比較検討するため、マツヴェイエフ学派としてピリオダイゼーション理論を正確に引き継いでいるプラトーフによる理論を分析し、トレーニングピリオダイゼーション理論の主要概念を把握することを目的とした。
	研究成果	本研究の目的を達成するため、30年9月に、マツヴェイエフ学派としてトレーニングピリオダイゼーション理論の本質を正確に引き継いでいると考えらる、ウクライナの研究者V.N.プラトーフ氏に直接インタビューを行った。これまでプラトーフ氏との意見交換は主にメールでのやり取りが中心であったため、入手できる情報についても限られていた。しかし今回のインタビューでは、トレーニングピリオダイゼーション理論に関わる様々な問題について忌憚なく意見交換を行うことができた。最も大きな成果としては、「スポーツ科学におけるトレーニングピリオダイゼーション理論の位置づけが非常に大きなものである」ということを再確認できたことである。ウクライナにおける競技スポーツのコーチ教育のプログラムにおいて、「トレーニングピリオダイゼーション理論」は中心的な役割を担っていた。トレーニングピリオダイゼーションの本質的な意義についての正確な理解に基づき、コーチ教育のプログラム内容が構成されていることは我が国でも参考とするべき重要な問題であると考えられる。
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	①論文:青山清英、青山亜紀「ウクライナにおける上級コーチ養成教育」陸上競技学会誌(査読なし)第17巻 2019年3月発刊
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	①学会発表:青山清英、青山亜紀「ウクライナ、カザフスタン共和国における上級コーチ養成プログラム」日本コーチング学会第30回大会、平成31年3月14日、東海大学
	・その他 *学会・競技団体報告書など 著書名・標題・掲載誌名 発表年月・発行所 *講演会、研究会、研修会、セミナー等での講演発表 発表者・発表年月・題目名・講演会名 *社会貢献活動等	なし